

5月北海道地方放送番組審議会休会のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、5月19日(水)に予定していた北海道地方放送番組審議会は休会となりました。

NHK札幌拠点放送局 番組審議会事務局

2021年4月NHK北海道地方放送番組審議会

4月のNHK北海道地方放送番組審議会は、21日(水)、NHK札幌拠点放送局において、9人の委員が出席して開かれた。

会議は、委員長の司会により開会。札幌局長からあいさつがあり、議事に入った。

議事はまず、「ほっとニュース北海道」をはじめとして、放送番組一般について活発に意見の交換を行った。

最後に、5月の番組編成の説明と、放送番組モニター報告、視聴者意向報告があり、会議を終了した。

(出席委員)

委員長	蛭田亜紗子	(小説家)
副委員長	村田 博	((株)村田商店 代表取締役)
委員	今村 江穂	(認定NPO法人子どもと文化のひろば ふれいおん・とからち 理事長)
	桐生 宇優	(北雄ラッキー(株) 代表取締役社長)
	齋藤 拓也	(北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院 准教授)
	佐々木良榮	(デザイナー、(有)良栄・PLAN 代表取締役)
	成田 正夫	(ながぬま農業協同組合 代表理事組合長)
	西村 卓也	(北海道新聞社 論説主幹)
	船山 大介	(特定非営利活動法人 No Limits 理事長)

(主な発言)

<「ほっとニュース北海道」

(総合 4/5(月)～9(金)、または4/12(月)～16(金))について>

- 4月5日(月)～9日(金)の「ほっとニュース北海道」を見た。新しくなったオープニングの音楽はこれからニュースが始まるというインパクトのあるものだった。一方で新しいロゴはきれいだが、見づらいつと感じた。瀬田宙大アナウンサーの話し方は分かりやすく好感が持て、「超ローカル宣言」というキャッチコピーのとおり、ローカルなニュースが盛りだくさんで分かりやすい内容だった。番組冒頭で「きょうの道内ニュース」として主なニュース項目を紹介しており、どのニュースがいつ頃伝えられるのかが分かるのもよかった。「シリーズ 農林水産・最新技術」は、次はどうなるのだろうと明日も見たいと思わせる興味をそそる構成だった。各地の農林水産の新

技術や取り組みが非常に分かりやすく紹介されていて、いろいろとヒントをもらえる人もいるのではないか。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて大変な時期だからこそ、希望が持てるような特集だった。「故郷にレンズを向けて」という釧路局のカメラマンが故郷を取材するコーナーでは、自らも東日本大震災の被災者でありながら、自分にできることはないかという素直な問いと、地元出身のカメラマンだからこそ答えてくれた人たちの率直な思いなどが短い時間の中で伝わってきた。「JIMOTO自慢」のコーナーも全体的にバランスが取れているという印象を受けたが、浜中町のレストランを紹介していたが、シェフが料理を作るときにマスクをしていなかったことが気になった。「ローカルレンズ滞在記」は、ディレクターが1か月も滞在して取材するというのに驚き、どのような思いで企画したのか気になった。コーナーの中での二次元コードの表示時間が短く、読み込みが間に合わなかった。全体的にバランスの取れたニュース番組になっていると感じた。

(NHK側)

昨年度の「ローカルレンズ出会い旅」は不定期の放送ではあったが多くの方に見ていただけたので、定期で展開したいと「ほっとニュース北海道」の中で「ローカルレンズ滞在記」を立ち上げた。通常取材・ロケは何らかの取材対象・目的があってそれに向かっていくのだが、その発想を変えて、特に目的を立てずにとにかく行って1か月滞在させてもらって、その中から見えてくるものを伝えられないかと考えた。1回の取材・ロケでは見えてこない等身大の町や地域の姿を伝えたいということがコンセプトである。

- 「シリーズ 農林水産・最新技術」に着目して見た。「サケ稚魚の研究」は、浜中町の海とつながった藻散布沼を活用して育てた稚魚を海へ放流すると伝えていた。だが、番組では3年前に放流をしたと伝えていて、その成果がそろそろ出ていると思うので現段階での成果を知りたかった。また、地球温暖化の影響で最低水温から最高水温までの幅が広がるというのは分かるが、放流に適した水温を保つ日数が短くなることと、地球温暖化の関係がやや分かりにくく、温暖化が進むと水温上昇の速度が上がる理由も分かりづらかったので説明が欲しかった。「帯広市の和牛」については、AIが肉質を見分けて解析するような技術ができてきたというのは興味深いのが、北海道の牛に対して使うのではなく、福島市の牛に使われていた。北海道の畜産業に対しての貢献度はどのくらいあるのかが気になった。「強度の高いCLT」については、開発費用が非常にかかるとのことだが、どのくらい実用性があり価格の問題をどう解決するのか、もう少しいろいろな専門家や専門業者に聞いてみてもよかったのではない

か。シリーズとしては、意欲的にいろいろと調べられていて、新しい技術も紹介されていて関心を持って見ることができた。6日(火)には「衆議院北海道第2区選出議員補欠選挙」を取り上げていたが、選挙権があるのは札幌市の一部の選挙区内の人たちだけなので、選挙権のない人たちに何を伝えるか。どの党から誰が出ているかということよりも、誰が何を政策的に主張しているかを重点的に聞きたいと思った。各候補者の思いは伝えているが、この選挙の元になった「政治とカネ」の問題について誰も触れなかったのか、触れたけれども放送されなかったのか。それにどういうスタンスで臨むのかが国政にも影響する問題だと思うので、そこを聞きたかった。

- 新しいテーマ音楽はインパクトがある。番組冒頭で「きょうの道内ニュース」という形で、特集やその日に伝えたい大事なニュースを目次のようにまとめて示すのはよかった。週間を通して冒頭のニュースは新型コロナウイルスについての話が多く、変異ウイルスの感染が増えているということを毎日伝えていたのが印象に残った。だが、新型コロナウイルスの変異ウイルスへの感染が何人かという数の報告はもちろん大事だが、どういう点に注意しなければいけないのか、どういう特性があるのかということがあまり伝えられていないように思う。北海道の中で変異ウイルスの感染が増えているのであれば、変異ウイルスのどういうところが問題なのか、あるいはどういう変異の型があるのかなどを併せて伝えてもいいのではないかと思った。なお、道内の大学や医科大学などの専門家のコメントも入れながら、北海道の中から得られた情報を使って新型コロナウイルスについて説明していることは、とてもいいアクセントになっていた。それから、新しく加わった菅野愛キャスターと石川晴香キャスターがとても落ち着いている感じでよかった。瀬田アナウンサーの存在がとても大きく、「ローカルフレンズ滞在記」「ローカルフレンズニュース」のコーナーは、これまでの取材の積み重ねがとても生きていた。登場する人が、自分が住んでいる土地への愛着を語っており、とても好感が持てた。双方向演出に関して、二次元コードの表示が短かったので、もう少し長く映しておいてもらえるとよかった。

(NHK側)

ホームページの記事へ誘導する二次元コードの表示時間については、スタジオパートだけ表示するのではなく、VTR中も表示することなど検討したい。

- 「シリーズ 農林水産・最新技術」については、とても興味深い内容でどれも課題を克服して道内産の資源を生かす最新技術を端的に分かりやすく伝えており、視聴者の関心を喚起していたと思う。道内の各エリアの経済情報にも、新しい知見が盛り込まれていると感じた。そして、馬の出産がピークを迎えたことや、ニシンの群来、白

魚漁などの季節を告げる話題は、映像のインパクトもあって自然との調和も感じられた。その時期にしか見られない映像はこれからも丁寧に伝えてほしい。「チェンジ・ドット道東の地方創生」については、多くの人たちが関わって取り組みを進めることで、自分たちの町のよさや強みを認識できる、地方創生の一つのロールモデルになる手法だということが、二次元コードの先にある非常に読みごたえのある解説からも分かった。二次元コードを読み込むとディープな世界がより堪能できる仕組みになっていた。この回だけでは語れない素材のよさから、バラエティーに富んだ盛りだくさんでフレッシュな情報をお茶の間に届けるという印象を受けた。同じ時代を生きている北海道の人たちが、1日の終わりにまた明日も頑張ろうと思えるような番組になっていくといいなと感じた。

- 1日あたりの情報量、コンテンツの量はボリュームがあり、NHKの情報収集力と取材力がはっきり分かる番組だと感じた。新型コロナウイルスの報道については、テレビや新聞の報道ではなかなか分からない点が多く、結局はネットに頼ってしまう。新型コロナウイルスの重症化率や重症者数などを常にチェックしている人にすれば、新聞離れ、テレビ離れがそういうところで起きているのではないかと感じた。「シリーズ 農林水産・最新技術」については、北海道はやはり第1次産業で支えられており、その話題を特集として組んだのはとてもよかった。第1次産業に対しては成り手の問題など課題がある中で、番組で最新の第1次産業の取り組みを見せることは次の人脈作りにおいてもとても大切な情報なので、今回のようなシリーズはよかったと思う。「チェンジ・ドット道東の地方創生」について、士幌町の話については学生たちを含めて見事なマーケティングを行っていると思った。地に足の着いた地域おこしをきちんと取り上げて、分かりやすく見せてくれたのはとてもよかった。
- 4月12日(月)～16日(金)の「ほっとニュース北海道」を見た。日々のニュースの伝わり方という観点については、以前と比べて全く違和感がなく、これまでどおりきちんと伝わっていると感じた。耳の不自由な人にどう伝わるのかと音声をオフにして見ても、右上のタイトルの表示とテロップの組み合わせで内容がある程度理解でき、タイムラグはあるが字幕が後から追いかけてくるので問題なく伝わってきた。「ローカルフレンズ滞在記」はディレクターが1か月その土地に行ったきりで滞在するという企画で、そこで発掘される人や物は非常に興味深かった。いったん地元を離れてまた戻ってきた人にスポットを当てており、よそから人を集めるよりもいったん出ていった人を戻す施策のほうが移住策として効果が高いと思うので、こうして地元で頑張っている姿を伝えてほしい。今までは札幌とその周辺、あるいは各地の放送局の周辺の話題が取り上げられることが多かったが、この新しいコーナーは本当にローカルなところに入って行って、ローカルならではののおもしろい話題が取り上げら

れていて、よいと思う。新メンバーの菅野キャスターと石川キャスターは安定感があって、安心して見ていられた。双方向演出については、二次元コードが出ているので情報を積極的に取りに行く視聴者にとっては非常に便利になったと思う。ただ、表示する時間が短かった。表示すること自体が目的になってはいけなないので、一定期間ごとにアクセス数などを分析することも必要ではないか。

(NHK側)

「ほっとニュース北海道」は新年度からさまざまな点を一新した。「超ローカル宣言」というキャッチコピーのとおり、北海道のさまざまな地域の情報を丁寧に伝えていく。札幌以外の地域でも、その地域に根ざしてさまざまな取り組みをされ頑張っているみなさんに寄り添って、本当に地域密着の情報を伝えていきたいと考えている。

- 以前よりも充実した内容で見応えがあった。冒頭で、どの話題が何分ごろに放送されるのかが示されているのは分かりやすかった。「ワクチン接種について」は、町によって異なる取り組み方をタイムリーで知ることができてよかった。14日(水)には「新型コロナウイルスの第3波での死亡者の内訳」について詳しく伝えていた。統計をまとめた表がとても分かりやすく、これからの対策にも触れて紹介していてとてもよかった。最近「変異ウイルスの疑い」ということばがよく出てくるが、その疑いというのは症状で分かるのか、それとも通常の新型コロナウイルスと違ってどこが変異なのかが伝わりづらいところがあると思う。これからの報道の中で伝えてもらえれば、対策するうえでの参考になるのではないか。

(NHK側)

第3波の死亡者の内訳について統計をまとめたのは厚生労働省のDMATである。札幌市の新型コロナウイルスの第3波による死者の状況、実情を調べてまとめているデータを分析して伝えた。数字をただ伝えるだけではなく、その裏にどういう現実があるのかということも伝えることができるようにしていきたい。

- ニュース番組と情報番組の間のような印象で、それぞれのコンテンツは大変よくできていて、情報量の多さに感心した。だが、「道産食材の料理コンテスト」について、コンテストなのに順位もなく、どこのホテルで開催したのか分からなかった。何のためにこのコンテストを取り上げたのか伝わらなかったのが残念だった。「ローカ

ルフレンズ滞在記」については、前週を見逃すと何をしていたのかが分からず、置き去りにされているような気がした。野外音楽フェスの話では、Uターンした地元の人たちが出演したり、このフェスから東京に巣立ったミュージシャンがいたりという話だったが、都会に出たいという気持ちは分かるが、結局東京を目指すのがいいことなのだという印象が残ってしまい残念だった。また、「ほっとニュース北海道」と「北海道道」、「北海道スタジアム」で出演者や内容がかぶっている部分が出ているので、その辺の整合性を若干危惧している。番組の方向性としては間違っていないと思うが、これからどういうふうにとまとめていくのか期待している。

- 見ていて引っかかる部分が少ない、ほかのニュース番組などとは一線を画す、とても独自色の強い情報番組に成長していると感じた。新しいロゴはかわいらしいが、色味の明度、彩度が近いので見づらさがあった。新テーマ曲は、耳に残りやすくとてもいいと思う。ただ、トピックとトピックの間に時々間の空く瞬間があった。映像は流れていて無音だとドキッとしてしまうのではないか。天気予報は、ただ予報を伝えるのではなく、天気の読み方とか気象の知識について説明しているのがとてもためになっていいと感じた。気象予報士の浜崎慎二さんが、いかに気象のことを知ってもらうか、興味を持ってもらうかという思いはとてもすばらしいと思った。だが、14日(水)では新型コロナウイルス関連の感染者の数や第3波の死亡の実情を伝えた直後に五輪まで100日だと伝えたり、16日(金)には札幌の外出自粛要請延長のニュースの直後に登別温泉でゴールデンウィークに向けた一斉清掃の話題を取り上げていたりしていた。新型コロナウイルス関係のニュースのあとに、人が集まるイベントの話題が続くと心情としてモヤモヤしてしまう部分がある。せめて、間に違う話題を挟むなどして、伝える順序を考えたほうがいいのではないか。また、道内の地域のニュースを満遍なく取り上げようという意欲を感じるが、どうしてこの話題がこの地域でなければいけなかったのだろうかと疑問が残るものがあった。だが、新型コロナウイルスの影響でなかなか遠出できない中、道内各地の生の話題に触れることができとても興味深かった。衆議院北海道第2区選出議員補欠選挙関連の「投票に行こう！ひとくちメモ」について、企画としてはとてもいいと思うが、取り上げた話題が初歩的過ぎるものだったので、今後はもっと深く掘り下げられることを期待している。

<放送番組一般について>

- 3月19日(金)の北海道道「再び動き始めた地熱発電」を見た。地熱発電の仕組みについて模型を基に、野村優夫アナウンサーが仕組みや利点、開発の難しさなど分かりやすく説明していた。社会としてエネルギーの選択をしていくときに考える材料を

提供したいという姿勢が伺え、MCの鈴木貴之さんも再生可能エネルギーが北海道の今後にどのようにつながっていくのかという視点で伝えており、とてもいい番組だった。ただ、東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、全国で100件以上の開発が進んでいると伝えていたが、ほかの地域と比べて北海道ではなぜ進んでいなかったのかが分かりにくかった。温泉への影響や国立公園の存在などがハードルになるとあったが、ほかの地域も地熱を利用しようとするのと似たような問題はあったのではないか。北海道で進まない理由を併せて知りたかった。

- 地熱発電は調査から稼働まで時間と費用で10年前後かかるハードルが高いものだと分かった。今まで疑問に思っていたことがはっきりと分かりやすく解説されていた。
- 4月2日(金)の北海道道スペシャル「2年目突入！倉本聰SP～ドラマ界の巨人はなぜ北海道を選んだか～」(総合 後7:30～8:19 北海道ブロック)を見た。倉本聰さんは北海道のテレビ界の重鎮という印象だったが、MCの鈴木さんと多田萌加さんを温かく迎え入れていて、オープンマインドな感じで対談が始まり安心感を持って見られた。都会育ちだが、アイデンティティーに自然が強くあったと生い立ちを語る姿が印象的だった。また、脚本家を目指しながらもラジオ番組の描写に面白さを見出したり、テレビの脚本家として独立してからもシナリオ技術者としての腕を磨くためにがむしゃらに作品を書いたり、随所に才能の片鱗があったと感じた。利害を超えた本質的な人間関係を洞察する才能が、北海道との関係の中で開花した人だということが分かって、一層親近感が持てた。倉本さんが「自然っていうものが生きてるなって感じ」と話されたり、鈴木さんも自然と対峙する生活の中からのいろいろな想像力のヒントを得ているのだということがかいま見えたりして、通じ合うものがあるとてもいい対談だった。
- 4月9日(金)の北海道道「挑む杜氏・市澤智子の世界」(総合 後7:33～7:58 北海道ブロック)を見た。日本酒界の風雲児と呼ばれる、北海道で唯一の女性杜氏がどんな酒造りをするのか非常に興味を持った。東京の短期大学で醸造の勉強をして、ビール会社や酒蔵でも修行されたという非常に研究熱心な方なので、杜氏としての経験年数や今勤めている醸造会社の経験年数などが分かればさらによかったと思う。市澤さんは米と会話ができると言っており、今までの経験と強い信念から自信を持って酒造りをしているのが伺えた。そんな市澤さんが、どんな酒ができるのかと心配と期待が混じる場面もしっかりと捉えており、初搾りの場面もとても臨場感があり、現場にいるような感覚を味わうことができ、またそのときの彼女の表情から納得した酒ができたのだと感ずることができた。ただ、同時にほかの杜氏の反応もあればよかったと思う。北海道で活躍する職人はたくさんいると思うので、今後もそうした方を取材してほしい。

いと感じた。

- 杜氏の市澤さんが取り組む「極力米は削らない」という酒造りそのものにもとても興味をそそられ、同時に市澤さんの格好よさにとてもしびれた。飾らないありのままの魅力や、酒造りへのチャレンジ精神と仕事に対する厳しさ、すべてを捧げるまっすぐな情熱、そして精米度合いが高い大吟醸がもてはやされている今の時代に反旗を翻す強さなど、酒造りの様子を淡々と伝える構成も題材によく合っていてすばらしかった。人物を取り上げる場合、ゲストとしてスタジオに来ることが多いが、来ていないことがかえって市澤さんのストイックさを際立たせていた。また、今回は「女性杜氏」ということばを使っているが、女性であることを強調しすぎることなく非常にフラットに市澤さんという人物を捉えていることも、とても好印象だった。
- 4月16日(金)の北海道道「博士、マジですか！？～ユニーク学者が明かす生命の神秘～」を見た。北海道大学の中垣俊之教授のとてつ質の高い研究を分かりやすく伝える内容だった。番組冒頭で、中垣教授がイグノーベル賞を取ったという紹介があったにも関わらず、授賞理由を言わないことが気になったのだが、授賞理由になった研究を番組の中で解説しててなるほどなと思つた。
- 北海道大学の中垣教授の興味深い研究内容の紹介と分かりやすい解説で、どんどん引き込まれていくような感覚だった。粘菌の特性を生かして迷路や北海道地図を作る実験の数々は興味深く、鈴井さんと多田さんのリアクションからも臨場感が伝わってきた。ふだんなじみのない単細胞生物の賢さを発見できたことはもちろん、オンラインやリモート、バーチャルな世界で生活を送っている私たちにリアルな視点のすごさと大切さを教えてくれたと思う。
- 4月17日(土)の「北海道スタジアム春ノ陣―第一部―」と「―第二部―」(総合 後7:30～8:45、9:00～10:20 北海道ブロック)を見た。「第一部」は、総合司会の加藤浩次さんと北海道にあまり縁がないであろう人たちをゲストに迎えており、張り切っている加藤さんとゲストの対比が興味深かつた。179市町村の人たちとリモートでつなぐという発想は、新型コロナウイルスの現状において最大限のことをされていると思つし、事前準備だけでも大変だったであろうということが画面から感じられた。番組では、各市町村で考えた地域ならではのキャッチコピーを考えてもらい紹介していたが、一生懸命考えてアピールしようとしている姿はとてつ胸を打たれた。ギネス記録に挑戦するコーナーで、接続の問題なのかりリモート画面で白抜きの部分があつて気になった。全体としては、北海道各地の人たちを全道に発信するという形だったので、もつと全国にも発信してたくさんの人に見てもらえるといいのではないかと思う。新型コ

コロナウイルスの影響の中であって、とても有意義な一つの方向性だと思う。北海道は179の市町村があり、その一つ一つの個性を発信することによって、北海道全体の魅力が出てくると思うので、これからのステップアップを期待している。「第二部」は、TEAM NACSを特集していた。メンバーの舞台にかける情熱やその舞台裏というものを延々と描いていたが、それをわざわざこの番組の中で発信する必要があったのか。彼ら自身の存在がすでに北海道から発信するチームになっているので、そこを掘り下げていくのはどうなのかと思った。最後のインタビューで「自分の生まれた街が一番好き」だと言っていたが、「北海道スタジアム」ならではの特別な仕掛けや取り組みがあればおもしろかったのではないか。

- 4月19日(月)の「ひるナマ！北海道」の春レタスでお手軽韓国料理！の特集を見た。野菜ソムリエの土上明子さんが、料理の仕上がり具合だけでなく、旬の春レタスの特徴もしっかり視聴者に伝えていた。今回のようにキャベツを手でちぎることの意味や、素材を生かすための火入れの順番、残ったときの保存方法など、料理を作る人が欲しい情報をしっかり説明していてよかった。ただ、サツマイモ原料の韓国はるさめはどこで手に入るのか、インターネットで簡単に手に入る方法なども分かりやすく伝えてもらえれば、視聴者もより入りやすかったと思う。
- 4月20日(火)の「ほっとニュース北海道 道東スペシャル」(総合 後6:45~7:00 帯広・釧路ブロック)を見た。ふだんの5分間では取り上げられない地域色の濃い話題で満足感があつた。身近な話題が取り上げられることは、NHKへの親近感につながるのではないか。天気一つを取っても、十勝地方だけでも北部、中部、南部、さらに町村の天気が非常に詳しく伝えられていて見応えがあつた。十勝地方だけでなく、道東の釧路市、根室市も同じように詳しく伝えられていたので、15分間になるとこんなに違うのだなと思った。この枠を十二分に生かして、道東の魅力、課題発掘に取り組んでもらいたいと期待している。

(NHK側)

15分という形でより地域に密着した情報を出すことによって、地域の方にさらに喜んでもらえる情報満載の番組、ニュースを目指していきたい。

- 4月21日(水)の「NHKニュース おはよう北海道」の自動車科で名車が復活旭川実業高校の挑戦！の特集を見た。旭川実業高校の自動車科の女子生徒がリーダーとなり廃車をよみがえらせようとしていて、女性活躍の時代に合っている内容だと感じた。若い世代の人たちに、いろいろな職業があつていろいろな活躍のしか

たがあるのだということをもっと伝えてもらい、子供たちを応援できるような番組を作ってほしいと思う。

- 「ほっとニュース北海道」の中でときどき二次元コードが表示されており、スマートフォンで読み込んでその遷移先のホームページに行ってみたら、そのホームページの記事がたいへん充実していた。キャスターのブログも読んだが、これだけの情報を作るのはとても大変だろうと思うほどとても濃い内容で、読み物としてしっかりしている。それだけの情報があるのだから、今後は実際の放送の中でももっと二次元コードを出したり、ホームページでも詳しく伝えていきますと紹介したりした方がよいと思う。一方で、「ほっとニュース北海道」を放送している夕方の忙しい時間帯に、スマートフォンで二次元コードを読み込んでくれる人がどれぐらいいるだろうかという疑問もある。
- 4月10日(土)のNHKスペシャル「池江璃花子 新たな挑戦」を見た。トップアスリートが勝敗を分けるような局面で何を考えていたか、どんなことを見ていたかという答えを引き出せるかどうかは難しいことだと思う。だが、この番組ではインタビューする側の質問がとても丁寧に練られていて配慮を感じられた。池江さんの受け答えが、過去のVTRのインタビューと今回の生放送とでははっきり違っており、とてもよいインタビュー番組だと感じた。アナウンサーが考えて構成したのか、あるいはスタッフみんなで考えながら質問を練って聞いたのか知りたいと思った。ただ、NHKプラスで見たときに、「この映像は配信しておりません」と画面に出て1分間中断するようなどころがあったので、配信しなかった理由を知りたい。

(NHK側)

スポーツ映像では地上波で放送する権利、BSで放送する権利、ネットで配信する権利といったように権利が分かれており、NHKプラスで中断した時間はネット配信不可の映像だった。

- 4月10日(土)の【特集ドラマ】流行感冒(BSP 後9:00~10:13)を見た。志賀直哉のスペイン風邪を題材にした小説を原作とした単発ドラマだったが、現在の新型コロナウイルスのカリカチュアみたいなどころが多くあり、おもしろさを感じるとともにドキッとさせられるところも多かった。大正時代の暮らしと疫病と騒動を客観的にとらえることで、現代の社会的な問題が見えてくる効果もあった。俳優陣の演技は魅力と説得力があり、コミカルな部分のさじ加減も絶妙で、自然にずっとドラマの世界に入ることができた。原作と話の大筋は同じでもおもしろみや深みや

現代性といった脚色が加えられており、NHKのドラマ制作の力量を改めて感じた。新型コロナウイルスの影響を受けて出口が見えない今、いつかは感染の不安はなくなるのだということがドラマで見ることができほっとさせられた。ぜひ地上波でも放送をして、多くのかたに見てもらいたい。

- 4月1日(木)の聖火リレーのライブ配信について。長野市で聖火ランナーが走っていたが、音声の一部が切れて走っている姿だけが映っていた。その後、音声は戻るが抗議の声は消えていた。これに関して「聖火ランナーのかたがたへの配慮も含めて、NHKとしてさまざまな状況に応じて判断している」という回答をしていた。確かにランナーの感情を思うと、音をそのままにするのはどうかという部分もあるが、何のコメントもなく、ただそこだけ音が切れているというのはとても不自然な感じがするので説明が欲しい。

(NHK側)

聖火リレーの様相をインターネットのライブストリーミングでお届けしていたところ、急に大きな音が沿道から発生したので対応した。ランナー走行中の映像・音声については、走っている聖火ランナーの方々への配慮も含め、状況に応じて対応している。ランナーの方々に焦点を当てたものなので、音声の内容などによって対応しているわけではない。東京オリンピック・パラリンピックをめぐる様々な意見については、これまでもニュースや番組などで取り上げており、今後も、意見が対立している問題については、できるだけ多くの角度から論点を明らかにしていく。

NHK札幌拠点放送局
番組審議会事務局